

読書感そう作文・生活作文・説明文をかく

やくそう

- ・ ぶんこうようしのまい数。
- 読書感そう文…三まいまで
- 生活作文・説明文…三まいから四まい
- ・ 題名と自分の名前はわくの外に書く。
- ・ 読書感そう文は、おうぼびょうもついでに出す。

気をつけること

- ・ 習った漢字を使って、ていねいに書く。
- ☆はじめに下書きをして、それから清書するよう。
- ・ ぶんこう用紙の使い方を守る。
- ☆書き始めは「まず空ける」。
- ☆話がかかるころは、つぎの行にうつる。そして「まず空けて書く」。
- ☆会話文を書くときは、次の行にうつり、「」を使う。
- ・ 思ったことを書くとき、「」や（ ）を使わない。
- ・ 「…」や「…」は使わない。

自分の考えを書く

【読書感そう文】

- ・ 内ようやあらすじを書いただけにならないようにする。
- ↓まず、心にのこった部分のないようやあらすじをかんたんに書く。
- つぎに、そこから自分が考えたことを書く。

【生活作文】

- ・ 出来事を書いただけにならないようにする。
- ↓まず、出来事を書く。
- つぎに、そこから自分が考えたことを書く。

【説明文】

- ・ 調べたことやかんさつ、実験のけっかを書いただけにならないようにする。
- ↓まず、調べたりしてわかったことを書く。
- つぎに、そこから自分が考えたことを書く。



読書感そう文のポイント

本を読みながら

☆心にのこった行動や言葉をチェック。

- すこい
- なるほど
- びっくり！
- なぜ？
- 自分とにている、自分とちがう
- 自分だったら…

※**メモ**しておいたり、**ふせん**をはっておいたりすると、後から思い出しやすいよ。

書くことを考えよう

※あくまで一つのねいです。この通りでなくてもよいです。

【はじめ】

- その本を読んで一番心に残ったこと
 - 本のしょうかい
 - 人物のしょうかい
- など

【なか】

- 心にのこった場面のしょうかい
 - 気になった行動や言葉のしょうかい
 - 心にのこった理由
 - 自分とくらべてみて
にているな、ちがうな、
自分だったらどうするかな
自分のこんなけいけんを思い出したよ
 - この本を書いた人が伝えたいことは何だろう
 - そう考えた理由
 - 自分は書いた人の考えについてどう思うか
- など

【おわり】

- その本から学んだこと
 - 読む前と読んだ後で、自分の考えがこうかわった
 - これから、こうしていきたい
- など

下書きをしよう

☆下書きをしたら、一回自分で読んでみよう。

- 多すぎないかな、少なすぎないかな
- 習った漢字を使っているかな

清書をしよう

ていねいな字で、しく書きましよう。



生活作文のポイント

生活作文について

☆生活作文で大切なのは、

「こんなことをしたよ」

「こんなことがあったよ」

ではなくて、

「このことをきっかけに、こんなことを考えたよ」

「これからこうしていきたいな」

「みんなにもこんなことを知ってもらいたいな」

といったように。

テーマを決めよう

- ・夏休みの体けんから考えたこと。
- ・家ごとと話していて考えたこと。
- ・ニュースを見て考えたこと。
- ・七月までの学校生活をふりかえって考えたこと。

【これまでの作品の例】

・エアコンがこわれてしまい、三週間エアコンなしでした。

↓エアコンのない生活のたいへんさやエアコンのありがたさを感じた。

エアコンを使わずにすむすむ生活のすばらしさを知り、続けていこうと思った。

・のうぎょうをしているおばあちゃんの家でトマトづくりの手伝いをした。

↓トマトを作るのにいろいろなきょうがあるを知っておもしろい。

仕事のたいへんさを知り、おばあちゃんにすてきな気分でがんばろうと思った。

また手伝いに行きたいと思った。

説明文の流れ

※あくまで一つの例です。この通りでなくてもよいです。

【はじめ】

- ・これから書こうとしていることをかんたんにしょうかいする。

【なか】

- ・こんなできごとがあった。
 - ・こんなことをやってみた。
 - ・こんなことを知った。
- ↓
- ・そこから、こう感じた。
こう思った。
こう考えた。

【おわり】

- ・自分の考えがこんなふうにかわった。
- ・これからこうしていきたいと思った。



説明文のポイント

テーマを決めよう

- ・学校のじゅぎょうできょうみを持ったこと
 - ・ふだんの生活の中でふしぎに思っていたこと
 - ・夏休みのけいけんから気になったこと
 - ・ニュースを見たり、人の話を聞いたりしている時に気になったこと
- ※かんさつ、実験だけでなく、見学したことや工作の記録などで書くこともできます。

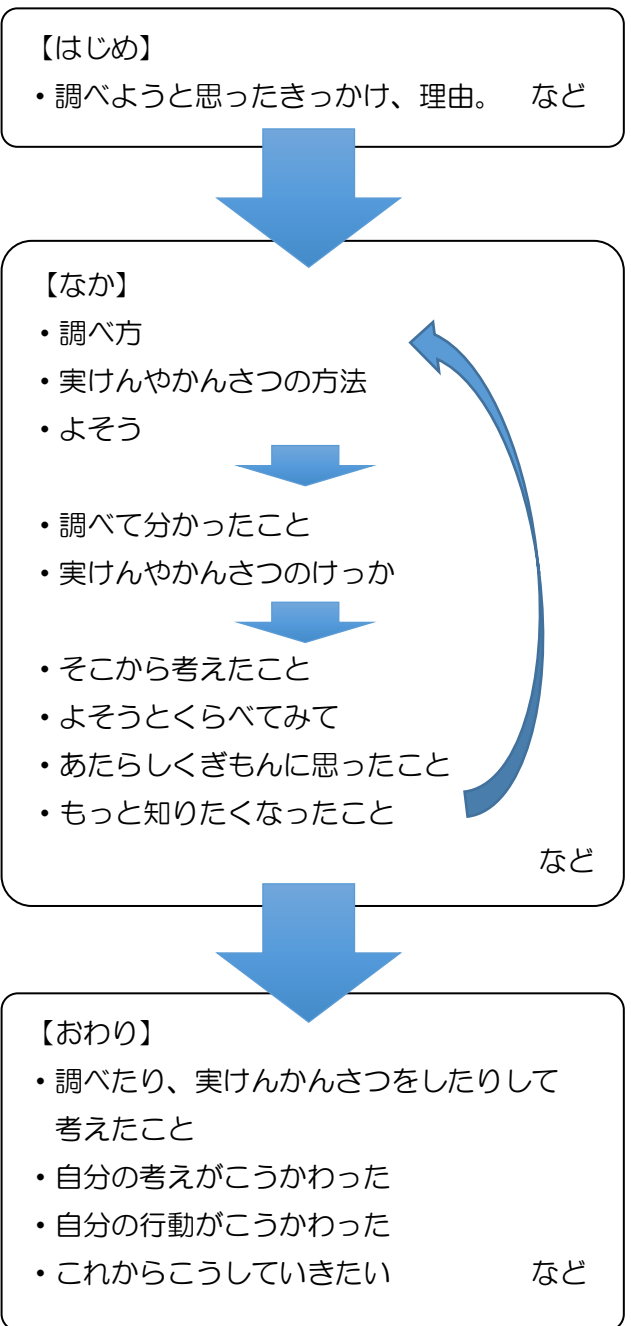
【これまでの作品の例】

- ・どんな竹とんぼがよくとぶか実験した。
- ・ありがどこから家に入ってきたのか、どうしたら入ってこなくなるか実験した。
- ・野さいを育てて、つくりや育ち方をくらべた。
- ・ふだんの生活で使う水のかさはかってみた。水の大切さを感じた。

説明文の流れ

※あくまで一つのれいです。この通りでなくてもよいです。

☆国語で書いたレポートとにっていますが、自分が考えたことをたくさん書いたり、自分の生活やけいけんとかん係づけて書いたりします。



くふうしてみよう

☆写真のをせたり、図や表のをせたりしてもよいです。



原稿用紙の使い方と書き出しのれい

ゆうすげ旅館にとまってみたいな
天王 花子

題名と名前はわくの外に書く。

時、場所や話の内容が変わるときには次の行にうつる。
書き出しや新しいだん落のはじまりは1マス空ける。
ただし、「」で始まる場合は1マス空けない。

今までに習った漢字を使う。

とお父さんとふるま
い何となくしき
ついでいた、ア
ゲハのよう虫
の頭のとこ
ろがわれた。
「わっ、わ
れた。」
と大声でさ
げんでしま
った。お姉
ちゃんがす

、や「」は1マス使う。
ただし、行の頭に来てしまう場合は最後のマスにいっしょに入れる。

会話文が2行以上続く場合は、
2行目からは1マス開ける。

会話文の後も文が続く場合は1マス空けない。
文が切れて新しい文が始まる場合は1マス開けて始める。

夏休みに入る前、家の花だんにめず
らしいものが生えてきました。それ
は、ほとんどお母
さんになって、五十センチにな
りました。お母
さん聞いたら、こう答えてくれ
ました。「これ
はこんにゃく
のじゃから持
ってきた土に
まじっていた
のだわ。」

数字は漢数字を使う。
単位はカタカナで書く。

※原稿用紙の使い方は小学校の教科書に準ずる書き方を紹介しています。